

広 報

# かわち

人口と世帯数

人口… 12,177人  
男 … 5,752人  
女 … 6,425人  
世帯… 2,542  
(1月1日現在)

発行所 河内村役場 編集 産業開発課 企画係 TEL 河内02978-4-2111~3  
発行日 昭和49年1月20日 印刷所 竜ヶ崎印刷所

賀

春



1974

1月号

No. 91

## あけましておめでとございます

石油エネルギー危機、異常な物価の値上がり、物不足  
の中であけた昭和49年

しかし、新しい年を迎え、希望と飛躍とを無限の未  
来に目ざし、ことしも、ゆたかな郷土建設に向かって  
力強く前進しましょう。

# 49年を迎えて



市長 杉山 貢

## 5つを重点目標に

みなさま、明けましておめでとうございませう。今年こそたくましく前進の年でありますことを心からお祈りいたします。

昨年は、住民福祉を直接肌感に感じながら主張してきた産業優先から福祉優先へと、政府の政策転換のときにあったので、社会資本の整備にもありましたが、政府は初年度を「福祉元年」と銘うち、その成果に大きな期待をよせながら、私たちが村民福祉の向上に努めてまいりました。みなさんのご指導ご協力をいただき村政全般にわたって堅実な成果を納めることが出来ましたことを心から感謝申し上げます。

さて、就任以来みなさんの心あたたかいご支援のもとに健康で明るい住みよい村づくりに微力を注いでまいりました。お陰さまで一歩一歩たぐましく前進しつつありますことは喜びにたえません。年頭にあたり所信の一端を申し述べまして、みなさまのより一層のご指導ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。今やわが国は、戦後はじめて経験する深刻な事態に直面しています。申し上げるまで

もなく石油危機であります。突如として中東紛争に端を発するアラブ産油諸国の原油生産削減、国際石油資本の供給制限、公示価格の引上げ、量と価格のダブルパンチによるわが国の電力、鉄鋼、石油化学等の主要産業のこうむる打撃は大きく、これにもない原料不足による大幅減産、コストアップ、価格騰貴等、関連企業、産業界全般への重大なる影響が予想され、今や深刻な事態を招くにいたっています。

重大さを認識し相たずさえて尽すならば必ず試練を克服することができると確信しています。本年は次の五つを重点目標として施策を進める考えであります。

- 一、農業の経済基盤の確立であります。生産性を高め、能率的な生産態勢を確立するためには総合農政を推進し、経営の合理化、施設の近代化など振興策を推進するかわらぬ農村工業の導入を計り、余剰策力の村内配備による過疎対策樹立の基本方針に変わりありません。特に本年は、非常事態に対処するため、農協関連業者の協力のもとに農業生産に必要な資材の確保に努力する所存であります。
- 二、教育環境の整備であります。昨年には源清田小プール、生保小屋体、金江津小、長竿小、源清田小の校庭の拡張、金江津に教員住宅の建設等を実現しました。本年度は金江津小のプール建設を計画していますが、最も大きな課題は成田国際空港の開港に伴う騒音対策として校舎の防音工事であります。この問題について、騒音対策協議会を発足して、その中に専門委員を選んで調査研究を進めています

# 輝かしい昭和



## 豊かな地域社会建設に

議長 岡田 彰 吉

ので近く結論がでるはずであります。ご承知のように石油危機の非常事態の中で政府、地方公共団体、民間の総需要抑制の基本方針のもとで防音工事は容易でないものがありますが、ご教育に関する限り、あらゆる常費の節減を計り、防音対策を進めなければなりません。

三、土木事業の推進については本年度の新規事業としては、源清田パイパス、長竿パイパス、万年橋の架替等ですが、新規事業の抑制のためですが、これが実現には県当局の理解はもとより幾多の困難を克服しなければなりません。又、村道舗装、利根堤防犬走りの舗装等例年どうり行う予

村民のみなさん、新年おめでとございます。

村民のみなさんのご支援を唯一の力として、「住みよい河内」の建設に懸命の努力をいたしておりますが、一万二千の村民生活の安定を期するためには、前途に解決を要する問題が数多く横たわっております。特に教育、土木、農林行政、また最近問題となっている公害問題、ならびに農村地城工業導入事業等に重点をおいて施策を講じなければ

定であります。常総大橋については、予定通り下部工事をすでに着工しておりますので取付道の用地買収の完了を急ぎ起工式をあげる運びとなっております。

四、福祉行政の推進については産業優先から福祉優先へと「福祉二年」を迎えたわけでありますが、石油危機は経済活動を停滞、物不足、インフレとからみあって、わが国経済を大きくゆすぶることは必至でありますが、国の施策として遂行してもらわなければなりません。村民一人一人が等しく幸せになり、恵くまれない人達に対しては、あたたかい血の通ったきこまかい福祉対策を進め、老人対策と

なりません。これらの解決を図ることがわれわれに課せられた責務であり、これからの

地方自治は、名実ともに内政のかなめとなって豊かな地域社会の建設にとりくみ、一九七〇年代を誇りうるような輝い時代にする努力をしなければならぬと存じますが、議決機関たる、私達村議会といたしまして、本年も木下村長の信託に応え、村政の諸問題を慎重に審議し、村民各位のご

して健康の保全、医療の確保老人ホームの建設などであります。

五、生活環境の整備について公害のない豊かな住みよい生活環境の整備を目指し、水道計り、水と緑の自然環境を保護し、特に新利根川の水質保全に努め、自然、歴史、文化的資源の保護と利用を調整し、近郊都市の憩いの場として、レクリエーションゾーンの形成に努力する考えであります。以上本年度の目標を申し上げます。ご支援をお願い申し上げます。ご益々健康とご多幸をお祈り申し上げます。

期待にそう努力する決意でございます。

きれいな空、きよい水、あたたかい心、のあふれる村、こんな河内をつくりたい、そのために一歩一歩をたいせつに踏みしめたいと思います。村民のみなさんのご理解とご協力をお願い申しあげ、明けゆく昭和四十九年が、みなさんにとりまして最良の年でありますように。心からお祈りいたしまして新年のごあいさついたします。

# 第四回定例村議会

第四回定例村議会が十二月十九・二十日と二日間開かれまし。

河内村特別職の職員給与・旅費・費用弁償に関する条例の一部改正、昭和四十七年度河内村各会計別決算認定の件など十一案件が審議された結果いづれも原案とおりの可決されました。おもなものは、次のとおりです。

▽河内村特別職の職員給与と並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する案

例 村長、助役、収入役の給与  
 村長 二五〇〇円  
 助役 一八三、〇〇〇円  
 収入役 一七七、〇〇〇円

▽議会議員の報酬  
 議長 六五、〇〇〇円  
 副議長 六二、〇〇〇円  
 議員 六〇、〇〇〇円

▽教育委員会の委員  
 委員長 月額六、五〇〇円  
 委員 月額六、七〇〇円  
 委員 月額八、三〇〇円

○農業委員会の委員  
 会長 月額八、三〇〇円  
 委員 月額八、三〇〇円  
 委員 月額八、三〇〇円

○公民館  
 館長 月額四七、二〇〇円  
 分館長 五、七〇〇円  
 と改正され昭和四十八年四月

一日より適用される。またその他の各委員の報酬も昭和四十九年四月から改正された。

▽河内村教育委員会教育長の給与、勤務時間、その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

教育長の給与が四月一日にさかのぼり次のように改正された。  
 教育長 一四四、〇〇〇円  
 副議長 六二、〇〇〇円  
 議員 六〇、〇〇〇円  
 会計補正予算  
 総額 六億九千二百五十六万九千二百五十六万六千円  
 才才出才予算の総額にそれぞれ二千七百七十七万円を追加し、才才出才予算の総額を六億九千二百五十六万六千円となりました。

指導員 年額一五、〇〇〇円  
 分団長 一五、〇〇〇円  
 副分団長 六、〇〇〇円  
 部長 八、〇〇〇円  
 技術者 三、六〇〇円

## 知事と

語る会より

十二月号で掲載した残り分についてお知らせします。  
 ▼中農家の経営対策について  
 沼崎 晃さん(長年)



私は二ヘクタールの耕作者ですが、出稼により生計を立てております。  
 生産に伴う農機具等の償却費は膨大な出資をしております。

現在、ライスセンター等の近代農業経営が行なわれていますが、中農家に対するこれらの農業経営と対策についての考え方を伺いします。

なお、知事から成田空港開港後、都市化する問題について話しがありました。河内村も開港と同時に都市化してしまいかと思いますが、その点についてこの農地を宅地化して住宅にそなえればよいのか、いかなる考えを持っているかお伺いします。

## 知事

ご承知のとおり県南地域というのは都市化の傾向というものをご避けることができないうるを背負っております。生命を見わたします。河内村の場合は畑地が少なく水田地帯というものが九割近くあるのではないかと思います。そういった中で、工場や住宅団地といったものを想定してもなかなか思うように入らないのが現状ではないかと思っております。

そこで、河内村が農村として自立できる体制というものをご始めるかどうかが、それが一つ村政の柱として立ててもらえるかどうかということが非常に重要な問題として提起されるべき問題であります。

従って河内村の場合に水稲というものが主な農作物であるならば、この稲作を中心とする複合的な農業経営の方向というものを協業の方向でもっていくことが一応理想としてかかげられていいのではないかとお伺いします。

河内村は東西に長く、この

いかに思います。  
 流通問題とあわせて、やはりこの稲作プラスアルファとして具体的な果樹、畜産、園芸というような方向に厚みをおかけたい農業経営というものは、はっきり打出して、農政上の要求をして、村政、県政、国政に対して出てくれば河内村が農業として発展する可能性があるのではないかと思っております。

そして村で生産したものをある程度村の要求にこたえて加工してそれを売っていく。これが国際空港や研究学園都市、鹿島もしくは東京の市場、これらに対して供給を図っていくという一つの体制ができれば村としての存在意義といえるものがあるのではないかと考えられます。

▽県道竜ヶ崎一上之島線の改良舗装を早急に実施された  
 小更 実さん(長年)

河内村は東西に長く、この



河内村は東西に長く、この

県道は通動、通学の専用道路ですが、道路巾が極めて狭く大型車の交換が各所で出来ず地域住民一般の通行にも不便を来しております。

また、聞くところによれば県営住宅整備事業を実施するやに聞いておりますので、改良、舗装あるいはパイパスの實現については早期完成をするよう特段の配慮をお願いします。

### 知事

改良は原清田・金江津地区を現在実施しており改良が済み次第舗装を実施します。  
なお、パイパス建設については改良、舗装が完了した段階であらためて検討します。  
流作地内のは整備事業については、五十年度着工の予定であり、地元と調整をしようふん行ない実施します。

▽小型の老人福祉施設にも大型同様県の助成を願いたい。  
野澤和太郎さん(生板)



高橋新治さん(金江津)

河内村には現在、残たきり老人と一人暮らしの老人が八十名おりますが、その約半数は一人暮らしの老人であります。老人ホームは水戸市、土浦市、古河市とかという大都市にあり非常にこの地区から遠いので、十五名二十名でも入れるような小規模の老人ホームを建設していただきたいと思っております。

### 知事

老人ホームは五十名以上の人員を取容できる規模をもつことが設置基準となっております。設備及び運営の面からも五十名は最低限度と思われまふ。したがって、老人ホームの整備については地域の分布と需要をばしじゅうふん考慮しながら整備をはかるとともに広域市町村による設置促進を検討してまいりたいと思っております。

農業後継者の育成資金については、現行では百万円までは借りられますが、その金額ではたりないので三百万円位まで引き上げていただきたい。後継者育成資金は、国の制度資金であり、県独自で引き上げることはできませんが、国としては、来年度五百万円程度に引き上げるよう検討がなされております。  
なお、農協の組合員でない場合、農協で取り扱わない場合には、県信連の支所取り扱いによる直貸しの方法による運用を図りたいと考えます。

### 知事

▽第二次農業構造改善事業の大型施設について  
朝日奈美智夫さん(源清田)  
ライスセンター等大型施設については二三年は採算がむずかしいので、厚みをつけた補助をお願いいたします。

### 知事

ライスセンター等大規模施設については、その利用率に問題があり遂次向上しつつありますがさらに利用率を高めるため施設の広域の利用など正常な運営がなされるよう指導を行ってまいります。

第四回定例議会において、昭和四十七年度一般会計、国民健康保険・簡易水道・常総船橋・農村地域工業導入促進事業各特別会計の決算が認定されました。

### 一般会計

才入	3億18万2千円の黒字
才出	5億8千81万1千円
才入	5億5千62万8千円
才出	1億4千8百50万円
才入	7億99万6千円の黒字
才出	1億4千50万5千円
才入	1億43万5千円の黒字
才出	2千9百21万3千円
才入	2千7百77万7千円
才出	7百72万1千円
才入	7百63万8千円
才出	7百72万1千円
差引	(黒字) 8万2千円

別	才入	才出	差引	引当金
一般会計	580,811,377	550,628,814	30,182,563	
国民健康保険特別会計	148,501,771	140,505,379	7,996,392	
国民健康保険特別会計	29,213,810	27,777,967	1,435,843	
常総船橋(被)船施設特別会計	7,721,000	7,638,751	82,249	
農村地域工業導入特別会計		6,157,547	△ 6,157,547	
合	766,247,958	732,708,458	33,539,500	

### 簡易水道特別会計

簡易水道特別会計は、複式簿記を採用している関係上、ほう大な紙面を必要とするため、表は登載いたしませんので、ご了承ください。

損益勘定(当年度)  
収益 2千9百95万5千円  
費用 2千6百80万6千円  
差引 △2百65万円  
です。四十七年度末まで通算した利益剰余金合計は、△2百93万7千円になります。

